

平成27年度
江別市 特別支援教育便り
教員第2号、保護者第2号

平成27年11月13日
江別市教育委員会
学校教育支援室
就学支援専任相談員
永谷直久
TEL 381-1409

今年度、既に11月となり、次年度新小1年生、中1年生の就学相談の大半が進められています。発達検査等が実施された場合は、その結果等を伝えるとともに、お子さんの就学先について懇談しているところです。就学先の決定のめどは、12月の中旬となっており、残す期間で熟慮されている家庭も多いのかと推察します。今回は、就学相談の流れと、就学選択の折、お話ししていることを紹介します。

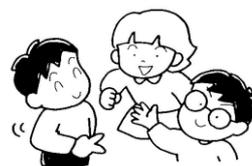
○就学相談の主な流れ

1. 教育委員会での保護者と市教委担当者との面談
市で開催する「就学に関する説明会」や各校で行われる「就学時健診」、在籍する学校、通園する園や発達支援センターでの「教育相談」などを通し、就学について保護者との面談を行います。お子さんの様子をお伺いしながら就学相談をし、必要に応じて発達検査の了承を頂き、実施いたします。
2. 就学検査専門委員による発達検査等を行い、検査結果をもとに望ましい就学先を考え、江別市教育支援委員会に具申します。
3. 江別市教育支援委員会では、計18名の教育支援委員が審議し、大きく分けると①通常学級②特別支援学級③特別支援学校のどの就学が望ましいか諮ります。
4. 保護者に教育支援委員会の審議結果を報告するとともに、就学先について懇談し、就学先の意向をお聞きします。
5. 期日までに、保護者から就学先の報告を受け、関係機関及び関係校にお知らせします。

○就学相談でお話ししていること

★通常学級では

基本的に、1クラス最大35人の子どもを一人の教師が指導します。一斉指導の中で、子どもが困り感なく、学習・生活できることが基底にあります。生活の中では、一斉指示を聞き、行動できることがもとになります。子どもは、たくさんすることに興味を持ち、少し他からの声が耳に入らないこともあるかもしれませんが、集団の中での友達との関わりや協調した行動がとれていく中での集団生活となります。学習では、一斉指導の中で発問や説明の意味理解ができるかどうかポイントです。理解では、一度の説明で全員が理解できるとは限りませんので、指導者は、子どもの様子を見ながら、補助説明や発問をしていきます。子どもの反応を想定し、2、3の補助説明や発問を用意していますが、足らない場合は、個別の支援が必要となってきます。子どもは、こだわりや不注意があっても、生活面では、友達とうまく関わることで集団的な行動がとれること、学習面では学習内容が理解でき、どう学んでいくかわかったりするなどの経験を重ねることで楽しい学校生活を送ることができます。



★特別支援学級では

子どもが不安を強く持ち、うまく行動できない場合や、こだわりが強い時など、個々に応じた指導が必要となります。自分の気持ちや伝えたいことがうまくできない場合も、しっかり受

容し、十分に時間をかけた対応をすることで、コミュニケーション力が向上していきます。学習面では、一人一人に応じたきめ細かいカリキュラムを用意し、その子その子の理解・定着に応じた速さで進めていきます。手順を示すと、それに従い自主的に活動できることを目指します。また、その子に応じた、交流学习（普通学級で学習する場面）も、保護者と協議して設定することができます。不得意の場面があっても安定・安心できる生活や学習環境の中で、楽しい学校生活となります。

★特別支援学校では

特別支援学級よりさらに、手厚い指導が期待されています。特別支援学校の定員は、子ども2、3人に1名の指導者が配置されることと、肢体や難聴・弱視などをはじめ、より専門的な知識をもつ指導者等が配置されていることから、自立活動が充実されます。特別支援学級では、最大1名の教員が6人の子の担当となっています。現在市内の特別支援学級では、特別支援学校のように、1名の教員が1、2名の子どもの指導に当たっている学校もありますが、年度により、大きく変化し、その状態が維持できるとは限りません。生活自立を身に付けるには、子どもに寄り添い、適切な支援や声かけは必須で、常にその支援、声かけを受けることで、自立活動が定着していきます。



★就学選択について

お子さんの特性を十分に熟慮し、お子さんにどんな力を身に付けさせ、将来、どんな成長を期待するかを視点にします。①通常学級②特別支援学級③特別支援学校のそれぞれに利点と不足する点があります。大人数で学ぶ生活・学習では、ミニ社会としての児童生徒間（集団）での学びの場（社会性）が多くあります。小人数の指導では、個に応じた細かく、手厚い指導がなされ、不得意なことや場面があっても確実な成長につながっていきます。子どもが入学して、過度の不安や不適合を持ち、楽しく学校生活を送れないことは、絶対に避けることが重要です。また、特に、特別支援学級の就学を考える場合は、就学が考えられる特別支援学級の学級見学や、体験などをさせていただくとともに、学校と特別支援学級の教育や教育課程について話を聞くことをお勧めしています。

○教育委員会で留意していること

教育委員会では、教育支援員会で審議・判定した個々の児童生徒についての障がいの状況等を踏まえた総合的な観点を伝え、保護者の意向が尊重される中で就学先を決定しています。教育支援員会の審議結果と違う就学先となることが少なからず生じていますが、留意すべき事項として、どの就学先を選択した場合も、お子さんの状態を進学先にしっかり伝え、当初から個により応じた教育がなされるように目指しています。お子さんの状態は個人情報ですので、保護者には、情報伝達の上承を頂いています。発達検査が就学先の判定のみに活用されることなく、発達検査や保護者との面談等で掌握した情報をその後の子どもの指導に生かしていくことが重要と考えています。

○H27年度江別市の特別支援学級（11月1日現在）

	設置校数	設置学級数	児童生徒数	教員数	介助員数	補助員数
小学校	17	45	132	61	22	19
中学校	8	22	64	31	10	4
計	25	67	196	92	32	23